

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
総務部	・積極的な情報発信	・HPの内容の充実および各イベントの豊富な情報提供かつ迅速な発信を心がけ、中学校等外部への情報強化を図る。特に、部活動のページではHP編集の手引きを作成し各顧問に編集をマスターしてもらい、充実した内容かつ計画的にタイムリーな更新を年2回以上してもらおう。 A 更新(行事)は7日以内	B	B	今年度は、HP上のトップページに、毎年中学校訪問や就職先などに配布している学校案内パンフレットの内容と同じものを載せることや、Youtubeの学校紹介動画を載せるなど少しでも本校に興味を持ってもらえるよう新たな情報発信に取り組んだ。また、行事予定のすばやい更新に努めた。一方、本校のスポーツ科や部活動を知ってもらうため部活動ページの充実を図るため年2回以上の更新を試みたが、部活動によって更新回数にばらつきがあったことが来年度への課題である。	HPの各ページ更新については継続してすばやく行っていく。また、新たな情報発信の方法も検討していく。部活動のページ更新については、毎度大会などが終わるタイミングで更新してもらおうなど定期的に促していく。	<p>・HPは、昨年より更新スピード、内容ともに向上している。次年度も地域や中学生また、保護者に情報を発信し続けていただき、学校の広報活動に役立ててもらいたい。</p> <p>・昨年度同様のコロナ禍で、活動が停止している現状では、経験のある本部役員、評議員がおらず、再開後の不安は残るが、育友会活動がスムーズに再開できることを祈念します。</p>
		・本校の魅力より強くアピールできるよう、引き続き学校案内パンフレットの内容を充実させスピーディーな配付を心がける。	A	今年度も新しい行事写真を追加することや本校で活躍している生徒からインタビューをとるなど学校案内パンフレットの内容を少しずつ変更した。また、本校の魅力を生かす材料として新たにポスターを作成し中学校に配布した。	来年度からカリキュラムに変更があるため、そちらも他分掌と連携し更新していく必要がある。また、学校案内パンフレットを各中学校や就職先などに確実に渡して多くの場所で本校をよりアピールしていく。		
	・保護者および育友会との緊密な連携	・保護者が学校教育活動に関心を持ち、諸活動に進んで参加してもらえるよう情報を発信していく。また、ホームページ・育友会報誌(年2回発行)等を活用して育友会活動を広報し、活動への協力も促していく。さらにコロナウイルスに伴う情勢の変化に対応するため、本部役員と評議員との合同会議の開催方法や時間を弾力的に検討し、より多くの保護者の方に話し合いに参加していただけるようにする。	B	B	今年度もコロナの影響により、育友会本部役員・評議員が集まることができる機会がなかった。その分コロナ以前より電話やメールを活用して、本部役員との連携を図ることができた。また、各学校行事について保護者参加の可否を決定する際、行事開催日の直前になって判断せざるを得ないことも多く、保護者に文書で早急に伝達する必要性も生じたが、対応することができた。育友会報は例年通り2回発行し、学校の様子を保護者に伝えることができた。学校行事を経験したことのある本部役員や評議員がいなくなり、学校行事に参加可能となった時どのように各行事を運営していくのが課題である。	コロナが収束し、育友会が学校行事に参加可能となれば、運営方法を理解している元育友会本部役員とも連携を図り、各行事を成功させる。また、引き続き参加不可であれば、今年度以上に本部役員と連絡を取り合うことで、参加可能となった時スムーズに運営できるよう準備を進める。	
	・魅力ある学校紹介行事の企画・実施	・e-オープンスクールでの配信内容を検討し、今まで以上に中学生にアピールする。特に部活動紹介では、生徒が制作した動画の導入や生徒による説明を通じて、よりわかりやすく魅力ある内容にし、興味を持たせる。また、全職員が協力して学校紹介事業に参画する。 A 参加者満足度95%以上	B		参加者満足度(「たいへん満足」「満足」)は91%。学校紹介動画や部活動紹介、校内紹介動画が参考になったという意見が多かった。また、入試情報が役に立ったという声も多かった。事後アンケートが任意のため、参加申し込み数(113名)に対してアンケート回答数(16名)が大幅に少なかったのが課題である。	動画の内容は現状のままで良いと感じるが、毎年情報を更新するための環境づくり(現状、動画の元データを引き継ぐためのソフトが存在しないため、作り直す場合に後任者の負担が大きい)、生徒への動画制作の委託などを考慮していく必要がある。また、今後もオンライン上のオープンキャンパスが続く場合、アンケート集計をどうするかや参加者の意見をどう反映するかも検討する必要がある。	
		・夏休みの部活動見学や体験受け入れが、コロナウイルス感染症再拡大の影響で中止になったことを受け、それに代わる機会を提供することで、中学生にアピールするとともに開かれた学校を目指す。	B	中学生体験入学の申し込みが44人あり参加者が34人であった。(約77%の参加率)今回は体験入学を予定していた期間が本校の休校と重なり、延期せざるをえなくなったことで参加率が低下したものと考えられる。体験入学の申し込みを中学校の先生が把握していないこともあり、個人とのやりとりをスムーズにすることが課題であると感じた。	今年度初めてのフォームでの申し込みに戸惑うことも多かったが来年度以降は既成の物を利用してよりよいものを作ることができると思われる。部活動ごとに日程の決定が難しいことと、他校のスポーツコースとの日程の兼ね合いも必要だと感じる。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教務部	・学習習慣の確立 ・学習意欲の向上 ・基礎学力の定着	・本年度も、 予鈴前入室・予鈴着席完了 の完全実施、本鈴始業の指導を全教員により粘り強く継続し、落ち着いた学校をつくるためにその 完全定着 を図る。 A 達成率 95%以上(生徒アンケート)	B	・本年度も全教員に取り組みを継続していただいた結果、 予鈴前入室・本鈴始業 の状況はほぼ習慣化してきている。特に1年生での定着は顕著である。ただし、前年度より意識は低下しているようである。 生徒アンケート「ややそう思う、そう思う」 H31 平均:81.3% R02 平均:83.9% R03 平均:75.5%	・現1年生が、学年を重ねてもこの状況を維持できるよう、また、次年度入学生についても同様の状況を実現できるよう全教員で一丸となって取組をお願いしていきたい。	・授業に対する準備姿勢徹底への取組の継続が見られ大変良い事だと思ふ。(予鈴入室)さらには(予鈴着席)の授業前の指導が定着させるため、先生方の取組は非常に手間と時間のかかることですが、落ち着いた環境づくりには欠かせないものです。 ・調査前の学習等家庭学習への意欲向上に向け、継続した指導をお願いします。
		・科目の観点別評価を各教科・科目の定期考査に明確に設定し、学習の達成度、学習要点を生徒に確実に伝えることで、生徒の授業や家庭学習に取り組む姿勢・意欲の向上を図る。 ・成績不振者講習の指導観点について、明確な指導基準を生徒・保護者に事前提示して理解を促すと共に、前向き・意欲的な姿勢を的確に受け止めて評価し、生徒の「やる気」の向上を促す。また、これにより本校の授業における生徒指導の基準周知を促すとともに、教員についても本校における指導のスタンスを再確認する機会とする。 A1 私は授業に意欲的に取り組んでいる。 A2 私は定期考査前に家庭での学習をきちんと行っている。(生徒アンケート)	B	A1: 生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R03 平均:78.0% R02 平均:84.1% H31 平均:79.1% A2: 生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R03 平均:60.7% R02 平均:64.1% H31 平均:62.0% 定期考査前の家庭学習意識は昨年度に比べ、やや低下した。また、授業への取組の意識も低下した。ここ数年、全学年とも、生徒が落ち着いて前向きに授業を受ける状況へと変化しているが、依然課題がうかがえる。	・考査に向けて放課後、自主的に学校で学習する生徒が前年度より少なくなった。家庭での学習習慣がないままに入学し、その改善がなされていない生徒も多く、学習内容の一層の定着を図れていない。欠点総数、欠点保持者は年々減少しているが、定期考査の結果には依然如実に現れている。学習に対する目的意識や成績に対する危機感の希薄な生徒、学習習慣の改善を自ら図ろうとしない生徒、改善意識はあっても実行できない生徒に対し、どのように指導するか、効果的な方策と取り組みを各教科・科目等で横断的に立案し、実行していく必要がある。	
		・本年度も7月の期末考査前に学力促進講座を実施する。また、2学期中間考査前に学力促進講座を行い、学力の中間～上層の生徒の学力向上を促す。また、この取り組みにより「基礎学力を支える学校」と共に「学力をさらに高める学校」という生徒・保護者の受け止めを図り、本校の全体学力の向上、校内の学習気運向上と生徒・職員ともに愛校心の向上を図る。 (生徒アンケート) A1: 普段も家庭学習に取り組んでいる45%以上 A2: 私は大和広陵高校に入学してよかった。 70%以上 (教員アンケート) A3: 「大和広陵高校にプライドを持っている。」 75%以上	B	A1: 生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R03 平均:36.2% R02 平均:35.6% H31 平均:30.9% A2: 生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が R03 平均:66.5% R02 平均:63.6% H31 平均:61.7% 「大和広陵高校に入学してよかった。」との回答の割合が 3年連続して向上 した。 A2: 保護者アンケート「ややそう思う」「そう思う」はR02 91.3% から R03 86.3% とこちらも減少したが高い数値である。 A3: 教員アンケート「大和広陵高校にプライドを持っている。」 「ややそう思う」「そう思う」はR02 76.1% から R03 74.4% となった。	・「大和広陵高校に入学してよかった。」と感じている生徒がやや少ないが、「大和広陵高校に入学させてよかった。」と感じている保護者が例年7割を超えていることについては、全先生方の、本校ならではの取組の成果である。逆にそう思えない生徒・保護者の意識を解析し、様々な場面で生徒との確かな関わりを持続して生徒を育成していけるよう、本校が行ってきた「厳しく、かつ暖かく深みのある指導」を引き続き継続していく必要がある。 また、 全教員が大和広陵高校にプライドを持てるよう に個々に課題を追求し、改善に取り組む必要がある。	
	・教育課程、評価方法等の改善	・令和4年度から導入する新教育課程について、教育課程内規等検討委員会で提案・確定し、これに基づいて次年度に向けての適切な教務事務を進める。	A	・教科主任者による検討会を積み重ね、各教科の要望を吸い上げながら令和4年度入学生からの新教育課程を確定できた。	・次年度以降、必要な改善があれば教育課程・内規等検討委員会で提案し、変更する。	
		・令和4年度から完全実施する観点別評価に向けて、教務内規を改定・改正し、教育課程内規等検討委員会で提案・確定して全教員に周知するとともに、次年度に向けて準備を促す。	A	・令和4年度から完全実施する観点別評価、履修と修得の分離について、教務内規を改定・改正し、確定した。	・次年度以降、必要な改善があれば教育課程内規等検討委員会で提案し、修正を図る。また、次年度のスムーズな実施に向けて準備をしていく。	
	・情報の適切な管理と情報機器の有効活用	・新校務支援システム、新成績処理システムの管理運用技術について、教務部内・外で複数教員による共有を図る。	B	B	・確実に新校務支援システムの運用を行うことができている。ただし、設定操作は単独の教員が行っている。	

	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
生徒指導部	基本的な生活習慣の定着	A 遅刻総数前年度比 10%減	B	B	・例年生徒会本部役員を中心とした正門前での挨拶運動を本年度は実施することができなかった。 ・「学校評価アンケート」において、「先生、先輩、友人等への挨拶を」では、80%以上の生徒が「そう思う」又は「ややそう思う」と回答している。しかしながら依然挨拶のできない生徒が多数見受けられるのも事実である。	・教員からの「声かけ」を粘り強く行う。 ・生徒会本部役員だけでなくクラブ員と連携し、挨拶運動を効果的に行うとともに生徒自らの活動を喚起する。	・教員からの「声かけ」は、生徒にとっても非常に大切である。継続的な実施を是非ともお願いしたい。 ・遅刻は昨年度に比べても大幅に減少している。先生方の指導の賜であると思います。	
			A		・遅刻者数は9時10分始業の期間を考慮しても、前年度同時期より大幅に減少していると思なすことができる(実数では約30%減、生徒1人あたりの欠席数2.93回→2.45回)。在籍生徒数の減少も関係しているが、粘り強い遅刻指導に一定の成果が現れていると考えられる。 ・近年、二極化の傾向が顕著であり、遅刻常習生徒の遅刻防止が喫緊の課題である。	・遅刻生徒に対する指導方法を検討し、より効果的な指導を行う。 ・家庭への依頼を強化するとともに、個別に面談等を実施することで意識を高める指導を行う。		・登下校時、電車乗車時のマナー向上にも継続的な指導をお願いしたい。
			B		・生徒との会話の機会に適切な言葉遣いを教員が教えることのできるよう、教員自身の意識を向上させる。 A 生徒アンケート達成度 90%以上	・「学校評価アンケート」では、「本校は挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を適切に行っている」が約80%、「生活アンケート」の「学校の先生に対して敬語を使って話していますか」では、約97%の生徒が「そう思う」または「ややそう思う」と回答している。「暴言」による特別指導も明らかに減少している。 ・学校生活全般において間断なく指導を続けた結果、丁寧な言葉遣いや敬語の使用の一定の定着はあるものの、課題はまだ残っている。		・日常のあらゆる場面で言葉遣いに関する指導を徹底し、すべての教員による粘り強い取組を展開する。 ・人権教育部と連携し、LHR等において「正しい言葉遣い」「やさしい言葉遣い」を対面コミュニケーションだけでなく、SNSの使用に絡めて展開していく。
	生徒の規範意識の向上を図る	・高校生として身につけておくべき常識的な行動を取ることで、日常の教育活動から公德心を養う。	B		B	・全体指導として、「防犯教室」「薬物乱用防止教室」「身だしなみセミナー」等を従前の形から縮小しながらも実施し、自他の命の大切さや規範意識の基になる社会性や公共心の更なる向上を目指し取り組んだ。 ・問題行動は、在籍生徒数の減少を考慮しても、前年度同時期と比べて大幅に減少している(実数では78名→28名、生徒1人あたりの問題事象件数0.18件→0.08件)。問題行動の内容としては怠学、深夜徘徊、SNSを含む迷惑行為、無断免許取得、喫煙等であり、より一層の家庭との連携が不可欠である。本年度は、近年減少傾向にあった生徒間の暴力事象や器物損壊が散見された。これには、生徒のコミュニケーション能力の低下が大きく関わっていると思われる。	・校外、校内巡視を組織的かつ計画的に実施し、更なる強化を図る。 ・問題行動に至らないために、日々の生徒理解と個別の教育相談、面談を行うことや、教員間の「報・連・相」、保護者との連携を密に行うことで、未然防止・早期対応につなげる。 ・学年主任連絡会、SCとの連絡会を定期的に行い、包括的な情報共有を図る。	
	・日々の教育活動と生徒への声かけを間断ない「声かけ」を通して規範意識の向上を図る。 A 問題行動総数前年度比 10%減	A	・各部活動では、練習時間や練習試合等の活動が制限されながらも創意工夫しながら年間を通して活動し、運動部・文化部ともに近畿・全国といった上級大会への出場や入賞等の成果が得られている。 ・部活動加入率64.8%(前年度比11.8%増)			・より多くの入部希望者が生まれるように新入生への部活動紹介や体験入部を工夫する。特に普通科生徒の運動部加入が急務であり、3年間所属し活動できるような指導体制の検討も必要である。		
部活動の活性化	・部活動に積極的に参加させ、その活動を継続できるように活動環境を整える。 A 部活動入部率 60%	A	A	・第1学年は「われら人間創造」、第2、3学年は学年別指導案に基づき、道徳教育HRを展開した。また、学級活動においてもマナー向上を呼びかける展開を継続して行った。 ・校外からのマナーに関する苦情に対しては、学年集会やHRで生徒全員に注意喚起を行った。	・より生徒の心へ届き、日常生活に現れるよう工夫を凝らしたLHRの展開を行う。 ・クラブ員を中心とした校内清掃活動、生徒会や各委員会による通学路清掃、花壇育成等の美化活動、地域貢献活動をさらに計画的に行う。			
道徳教育の推進	・道徳教育HRを通して、人間としての誇りと自立した心構えの育成、他人の気持ちを理解しようとする心の育成、心豊かな情操の育成を図る。	B	B					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育部	「自他敬愛」の精神の高揚	・あらゆる教育活動を通して、生徒の人権意識を高めるとともに、互いに尊重し合う人間関係づくりができるよう取り組みをすすめる。生徒アンケートで「人権意識が向上した」もの75%以上を目指す。	A	A	・生徒の「私は人権学習を通して人権意識が向上した」とアンケートで答えた割合は、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて75.2%であった。昨年度の83.9%や一昨年度の80.2%よりやや低下している。コロナによるリモート学習などの影響で生徒への意識付けがややできなかったのではと分析するが、学年やクラス担任の先生方はテーマに沿ってしっかりと生徒を指導していただけたと分析する。	・生徒の意識を高めるために、HRの内容や教材の研究にしっかりと取り組んでいきたい。	<p>・コロナ禍における人権問題も含め、人権意識の点検、向上に向け、先生方や生徒に研修等の機会を定期的に行い、人権意識の向上に努めてもらいたい。</p> <p>・来年度も有意義な人権講演会の実施を期待したい。</p>
		・生徒向け人権講演会を実施し、さらなる生徒の人権意識の向上を目指す。 ・人権に関わる生徒の問題行動の早期発見と対応をおこなう。	A		・LGBTの全校講演会を実施した。会場参加は3年生のみであったが、教室でリモート配信という形で他学年も参加させることができた。特に個人の体験に基づく講演には多数の生徒が心を打たれた様子であった。また、生徒の人権に関わる問題行動として本年度報告がなかった。	・今後の生徒対象の講演会について、生徒の心に残る方法や題材をよく検討し、継続して取り組んでいきたい。また、生徒の差別発言や人権にかかわる問題行動に対して、引き続き生徒の言動に注意しながら、事象発生時には迅速に対応できる体制を築きたい。	
	人権HRの取り組みの充実	・学年と連携しながら人権HRの充実を図る。事前の学年研修でしっかり協議し、各クラスでのHRの展開をサポートする。	A	B	・人権HRの教員の事前研修はどの学年も実施できた。また、HRの指導案に対しても各クラスの担任は展開方法についてよく研究され、学年の人教部などもよく相談されて、積極的に取り組んでいただいた。	・今後とも全校で連絡を密にし、取り組みを進めていきたい。	
		・全職員対象の職員研修を実施し、また各種団体の実施する人権研修を確実に職員に伝える。	C		・教職員と育友会合同の人権研修会を実施した。本年度より育友会より研修に参加していただいた。部落差別の歴史と現状の課題について、講演を拝聴した。講演時間の超過が発生してしまい、職員からは数多く指摘を受けた。	・今後の職員研修などの企画において、時代に即したのも含めて内容を検討し、より有意義な研修となるようにしていきたい。	
	人権作文の取り組みの充実	・全生徒が夏期休業中の課題として人権作文に取り組むことにより、自己の人権意識を高揚させ、社会の様々な人権問題を直視する機会をつくる。人権作文の提出100%を目指す。	A	A	・担任の先生のご尽力のおかげで、長欠者などを除いてほぼ100%の生徒に提出させることができた。しかし、実態の解明は不可能であるが、他人の作品の盗作や、適当に書いて出せばいいやという低い意識での作成など、数値では見えない課題もある。	・インターネットからの引用などに対して何らかの対策が必要であるが、生徒への啓発以外に具体的な解決策が見えてこない。引き続き対策を検討していきたい。	
		・人権作文を書く意義を浸透させ、生徒自らが自覚するため、夏休み前に資料の配布と事前指導を行う。また、締め切り日に未提出の者には提出指導を徹底する。	A		・事前指導について、ほぼ担任の先生に十分な展開してもらえた。また、締切日後の未提出者に対する指導は、学年の先生や担任の先生の協力で、円滑に実施することができた。	・生徒に人権作文の書き方についてのプリントを配布しているが、その内容について、今後もより生徒が取り組みやすいものになるように検討を続けていきたい。	
	奨学金手続きの確実な実施	・各種奨学金の案内を生徒に確実におこない、書類等の準備や記入について細かな指導をする。	A	A	・必要な時期に必要な案内をし、未提出者には催促や確認の有無などを繰り返し、ほぼ円滑に申込の手続きをすることができた。	・本年度、学生支援機構より、生徒の書類不備について学校に確認がないまま、その書類不備が理由で不採用とされるケースが発生した。今後の取り組みとして、対応方法を検討していきたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導 キャリア教育	・進路目標の早期確立と望ましい職業観・勤労観の育成	<p>○3年間を見通した系統的な進路HRや総合的な探究の時間・キャリア・パスポートの取り組みを通して、自らの将来を展望し、確かな目的意識を持って自己実現に向けて取り組む姿勢を育てる。</p> <p>○県立教育研究所と連携して、インターンシップに参加する生徒を増やし、職業意識を高める。</p> <p>○1. 2学期末に「進路だより」を発行する。</p> <p>A 生徒アンケート 満足度70%以上 A インターンシップ参加生徒年間10名以上</p>	B	<p>○キャリアパスポートに対する取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大により十分に行うことができませんでした。3年時の進路活動では、自己理解と仕事理解を深めておくことが重要です。3年間で、どのような力を身につけたのかを面接時に述べるためにも来年度もキャリアパスポートへの取り組みを進めていく必要があると思われます。</p> <p>○インターンシップ募集の際は全員に配付して興味を持てるようにしましたが、目標は達成できませんでした。</p> <p>○進路だよりは三者懇談時に発行しました。3年生の進路状況や来年度から実施されるかもしれない「一人一社制」の見直し等が内容の中心となりました。</p> <p>○生徒アンケート結果 満足度 71.2% インターンシップ参加者年間延べ13名</p>	<p>○進路のしよりのB5へのサイズ変更を検討中</p> <p>○キャリアパスポート作成を通して、自己理解を深める取り組みを進める。</p> <p>○インターンシップ・セミナーなど県立教育研究所が開催する事業をこまめにclassroomで案内し、目に触れる機会を増やし、仕事理解を促す。</p>	<p>・インターンシップへの参加希望者が近年減少傾向であると聞く。自分の将来を決める重要な取組の一つだと言うことをもう少し理解させて、その数を増やす必要がある。</p> <p>進路実現の為に高校入学後、早い段階から生徒自身にしっかりと卒業後の進路を考えさせることが重要である。</p> <p>・学校として就職先の新規開拓を是非とも期待します。</p> <p>・地域の職場に就職した卒業生等を招聘し、実際の体験談を聞かせる取組にも期待したい。</p>
	・進路実現の支援	<p>○生徒・保護者の考えを理解し、満足した進路が実現できるよう進路相談、説明会の機会を設ける。</p> <p>・各学年 進路ガイダンスの充実</p> <p>・就職希望者個人面談</p> <p>・保護者説明会</p> <p>・総合型、学校推薦型選抜説明会</p> <p>○春期、秋期の進路講座の充実を図り、最後まで講座に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>A 生徒アンケート 満足度70%以上</p>	A	<p>○各学年のガイダンスの取り組み</p> <p>1年 コース選択進路説明会 進路が決定した3年生をパネラーに迎え実施。</p> <p>2年 進路ガイダンス 進学希望者 (株)さんぼうに依頼し、コース別進学説明会 就職希望者 10社の人事担当者を招き職種別就職説明会</p> <p>3年 マナー講習会 就職、看護、理学療法、理美容など希望するコースに分かれ、講師を招いて実施</p> <p>○4月末から就職希望者に対する個人面談 就職希望者の保護者説明会(40名程度の保護者が参加) 専門学校AO,総合型選抜、学校推薦型(指定校)、志望理由書などのガイダンスを出願時期に合わせて実施。</p> <p>○生徒アンケート結果 満足度 76.4%</p>	<p>○生徒にとってより良い機会となるようマンネリ化を防ぎ、学年の先生方の希望を聞き、実施できるように努める。</p> <p>○高大連携などをより進めていく。</p> <p>○事業所との信頼関係の構築</p> <p>○必要な時期に必要な説明会を実施する。</p>	
	・進路保障の取り組みの強化	<p>○各事業所との関係性の強化を図り、安定した求人件数を確保するよう努める。</p> <p>○各大学の入試方法などの情報の収集に努め、進学指導の充実に努める。</p> <p>A 学校斡旋就職希望者の内定率100%</p>	B	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大のため、事業所訪問は自粛。電話と依頼状の郵送で求人依頼しました。</p> <p>○今年度の求人数は昨年よりも100社程度増加しました。</p> <p>○内定企業に生徒から近況報告文を郵送しました。</p> <p>○内定者集いを11月に実施し、計3回実施しました。</p> <p>○総合型選抜で3名、学校推薦型(公募)で2名合格しました。</p> <p>○学校斡旋就職希望者の内定率は100%でした。</p>	<p>○高校生の就職慣行の変更について研修を行う。</p> <p>○早期離職防止への取り組みを進める。</p> <p>○教育相談室・人権教育部と共に、療育手帳を持つ生徒や外国籍の生徒の進路実現に取り組む。</p>	
・学校外の教育力を活用したキャリア教育の推進	<p>○高大連携をはじめとする学校外の教育力を活用することで、キャリア教育のさらなる推進を図る。</p> <p>・フィールドワーク事後指導</p> <p>・生涯スポーツ科 大学での学び講座</p> <p>・公務員採用セミナー</p> <p>○1学期末に職員研修を計画し、進路を取り巻く環境や指導方法などについて研修を深める。</p> <p>A 職員研修を年1回実施する。 A 生徒満足度 70%以上</p>	B	<p>○高大連携等について</p> <p>1年 コース選択説明会 天理大学体育学部 2年 進路ガイダンス 広陵町役場・奈良県警香芝署 (株)サンテリカなど8社の採用担当者 奈良学園大学・田北看護専門学校 彩ビューティカレッジ・白鳳短期大学など</p> <p>3年 マナー講習会</p> <p>○公務員セミナー 奈良県広域消防組合・奈良県警香芝署・自衛隊橿原地域事務所</p> <p>○職員研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しませんでした。</p> <p>○生徒アンケート結果 満足度 60.7%</p>	<p>○広陵町フィールドワーク 危険な交差点などを調べ、「飛び出しくん」作成を前向きに検討する。 事後指導で奈良県警香芝署から講師を招き、増加中の自転車による交通事故などについて講演してもらう。</p> <p>○先生方の希望に耳を傾け、外部講師の依頼などの取り組みに積極的に行う。</p>		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
環境整備	・校内美化の推進	・通常清掃活動の徹底をはかる。環境整備部の清掃点検を実施、清掃担当者にフィードバックし、清掃活動の充実をはかる。 A 部員による点検作業を実施し、担当者と協力し清掃の充実を図る。「あさがお」、職員朝礼を使つての啓発活動を行う。	B	B	生徒を使つての清掃活動は活発になってきた。ただ生徒数の減少でやりきれない箇所もでてきた。少人数で有効にできる方法を模索する必要がある。	事務室と連携して清掃用具の量及び質の充実を図る。	<p>・日々の清掃活動、クラブ員による一斉清掃の継続した指導、取組をお願いする。</p> <p>・危機管理問題について教職員、生徒の危機管理体制の確立と防災意識向上に向けて取組をしてもらいたい。</p> <p>・地域の人間を交えた防災教育の推進をお願いしたい。</p>
	・ゴミの分別の徹底	・各ホームルームにおける担任からの生徒への啓発活動を図るとともに、生徒美化委員によるポスター作成及び掲示する。それにより全校生徒の協力を呼びかけ、ルール遵守の意識を高める。(校内美化・ゴミ分別の徹底) A 生徒アンケート調査結果「ゴミが落ちていたら捨てる。」50%以上。	A	A	教室、廊下にゴミが放置されていることはなくなった。生徒自身が積極的にゴミを捨てる姿も散見された。全生徒がそのような行動ができるように啓発していきたい。	美化委員による啓発活動を継続するとともに、機会を見つけて、校内美化をアピールさせる。	
	・ゴミの分別の徹底	・ゴミの分別の習慣化を確実にするとともに、集団における様々なルールの存在を認知させ、守ることの大切さを意識させる。(ゴミ集積場での確認) A 生徒のアンケート調査結果「分別に従ってゴミを捨てる。」80%以上。	A	A	生徒個々が分別意識を持つようになってきた。教員の指導によるところが大きいと思う。分別行為が習慣化されるようにしていきたい。	美化委員による啓発活動を継続するとともに、機会を見つけて、校内美化をアピールさせる。	
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇での草花の栽培管理(週2回の水やり作業を含む)を実施する。	B	B	本年度途中、秋の植え替えて日持ちのよい苗木に変更した。本年度は生育状況を確認中で、それに関わる、美化委員の活動は不定期なものに終始した。	美化委員の活動が活発になるように、状況を見ながら、活動内容を見直していきたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
文化図書	・図書館教育の充実	・新入生対象の図書館オリエンテーションを始め、新着図書の教室掲示、学級文庫の貸し出しを行う。 ・図書館イベントを効果的に実施し、学校活動全般を通し、生徒、教員が積極的に図書館の利用につながる機会をつくる。 ・図書館司書との連携を密にし、図書委員の活動を活発にし、図書館を活気あふれる場にする。 A 貸出数 前年度同数以上	A	A	・貸し出し数は昨年度1,547冊から2,390冊と、約54%増となった。クラスでの学級文庫の利用が17件、シリーズ本の貸し出し、生徒希望図書の設置も多く、各学年60～90冊利用があり、大きな増加につながった。 ・司書の協力により多くの新着図書を取り入れ、蔵書の流動性も高くなっており、学期ごとに一覧を各教室に掲示してもらい、図書館イベントで作成した「しおり」を広陵町立図書館に設置してもらい、文化祭文化部作品の展示場所とするなど、図書館の活性化が効果的につながっている。	・R3年度に引き続き、図書館イベントを効果的に実施し、生徒、教員が積極的に図書館の利用につながる機会をつくる。ニーズにあった図書を積極的に取り入れて、貸し出しの活性化を行う。	・図書館イベントを効果的に実施し、図書館の利用が高まっていることは非常に良いことだと思います。 ・コロナ禍においても感染対策を講じながら文化祭行事が開催できたことは非常に良かった。
		・ストーリー創作HRを通して、生徒が読書に親しむ機会を設ける。 A HRの取り組みに対するアンケートの結果で「取り組んだ」「どちらかというに取り組んだ」の項目 50 %以上	A	A	・アンケート結果:A積極的に取り組んだ、Bどちらかというと思う合計74.8% ・ストーリー創作で用いる図書の選定が非常に難しく、また、短い時間で図書委員の朗読録音等、計画的な実施が課題である。	・ストーリー創作で用いる図書の選定を効果的に行う。	
	・文化祭において多様なジャンルの芸術鑑賞を企画し、様々な文化に触れる機会を生徒に与え、芸術を鑑賞する態度を養う。 A 芸術鑑賞会事後アンケート満足度 85 %以上	A	A	・今年度は「to R mansion」パフォーマンスの芸術鑑賞を行った。生徒の体験型コーナーも積極的に参加する姿勢が見られた。 ・アンケート結果:たいへん良かった(70%)、良かった(23%)合計93%	・生徒たちの意見を取り入れ、文化的要素とニーズをバランス良く取り入れながら、コロナ禍での実施を計画する。 ・卒業生と同窓会記念品の音響設備を継続的に利用可能にする。		
	・図書館イベントや新春カルタ会など文化的活動体験を積極的、効果的に実施し、様々な文化に触れる機会を持たせる。 A 生徒満足度 70 %以上	A	A	図書館イベントは、今年度より地域協働推進事業の活動の一環として、取り組み、図書委員を中心にしおり作りを行い広陵町立図書館に設置した。カルタ大会はコロナのために中止した。	・コロナ禍において、文化的行事の効果的な実施を行う。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育部	・健康教育の実現	・生徒のニーズに合わせた資料を定期的に作成し、生徒の健康意識の向上に努める。また本人だけでなく保護者にも伝わるよう保健だよりを有効なものにしていく。 A 学期に一回資料(保健だより)を発行する。	B	保健だよりを4月・6月・7月・9月・12月・3月に発行した。6月には歯科検診前の資料として配布した結果、検診中に歯の状態を気にかけたり、校医先生に自ら確認している様子が見られた。また、三者面談で配布する月には医療機関受診を促す内容を取り取り入れた。しかし、受診率は未だに低いことが課題としてあげられる。	検診前の事前配布を継続し、予防・治療への意識を高める。医療機関受診を促すため、 受診勧告書の再発行も今後検討していく必要がある。 また資料をHPやクラスルーム・365メール等に掲載し生徒や保護者の目に触れる機会を増やす。	・昨年度に比べ大会数も増えて良かった。来年度も同様な活動が出来ることを祈りたい。
	・保健室との連携	・保健室、来室生徒の状況について、学年・クラス担任と連携し、情報を共有する。 A 学年会議等で情報交換を図る。	B	来室カードの写しで担任の先生方に記録を残したり、日々の個別の報告・連絡・相談にとどまり、全体の来室数や各クラスごとの来室者等を資料で提示していないことが課題として残った。保健室から情報発信不足であった。	学期ごとに各学年へ来室状況や生徒の様子等の提供を行う。難しい場合は回覧を作成する。	・コロナ禍で体力の落ちた生徒が増えたと思われる。是非とも日頃の工夫した取組で、生徒の体力向上を目指して欲しい。
	・食育の推進	・飲食物についての意識を向上させるため、HR教室に職に関する資料を掲示する。 ・運動部員の食事に対する意識を向上させる。 A 食に関する講演会(部員対象)を実施する。	B	食育担当者により毎月の食育に関する掲示を継続した。また、う歯のある生徒が多いことが本校の課題の1つであるため、食育担当者と相談し、う歯の内容での食育だよりの発行及び食育の日の放送を行った。	歯科と食育について結びつけて指導していけるようにしたい。教室掲示していたものを、保健だよりの裏面に印刷し配布することも検討していく。また資料をHPやクラスルーム・365メール等に掲載し生徒や保護者の目に触れる機会を増やす。	
	・生徒の体力向上	・トレーニングの必要性について理解させ授業でトレーニングを充実させることにより、トレーニング方法の習得や日常的に実施できる能力を育てる。また1学期の授業では10分間走を実施し、運動習慣も身につけさせる。 A 学期中にトレーニングの評価を2回程度実施する。	B	トレーニングの評価は概ね実施することができたがその必要性の理解に対する手立てはできていない。10分間走は定着しつつあり、運動習慣向上の一助にはなっている。また部活動単位で外部講師によるトレーニング実践を継続実施することができた。	トレーニングや10分間走の効果について説明を度々行い、方法の説明や評価については年間の計画を作成して計画通りに実施する。また部活動単位の外部講師によるトレーニング実践は来年度も継続して行い、運動部員の知識や方法の理解から競技力に繋げる。	
	・生徒の体力向上	・持久走を毎学期実施し、体力の向上を図る。 A 従来の1, 5倍で実施する。	B	オンラインや休講により計画の回数は実施できなかった為、例年と比較すると生徒達が運動する機会は減少した。	感染防止対策を講じた上で生徒の運動する機会が確保できるよう計画する。	
	・生徒の体力向上	・スポーツテストの意義を理解させ、その正しい測定方法や種目ごとのコツについて授業を展開し、各種目の数値を向上させる。 A 全学年において「体づくり運動」の取り組みを充実させる。またスポーツテスト練習を行い記録向上を目指す。	C	体づくり運動は毎時間実施することができた。スポーツテスト前の測定方法の説明や練習は時間が確保できず十分に実施することができていない。測定においては前向きに取り組む生徒が多く見られた。	スポーツテストの結果を基に本校生徒が特に足りない項目の体力について毎時間のトレーニングに取り入れるなど工夫して行い、次年度の結果により評価する。	
・運動部活動の活性化	・運動部員集会を行い、アスリートとしての資質の向上を図る。 ・毎週火曜日の清掃活動や各部の管理区域の整理整頓を徹底させる。 A 運動部員集会の実施毎月1回、学期に1回以上 運動部・文化部合同の清掃活動を実施する。	B	集会や清掃活動は概ね実施できたが、生徒の自主的な行動の習慣化には至っていない。	集会や清掃活動の意義について全クラブ員が理解し、自主的な行動が習慣化されるように、顧問が競技力向上の土台である、「しつけ」や「整った環境」「落ち着いた心」で練習に取り組むことなどを最優先に粘り強く指導しなければならない。		
・運動部活動の活性化	・新入生体験入部制度を実施し、部活動への加入を促進する。 A 体験入部を100%完了させ、新入生部活動加入率50%以上を達成する。	B	新入生体験入部は完了したが、昨年と本年で共に入学者が半減しており、部員数も減少していることから公式戦に出場することが困難な競技も出てきている。新入生部活動加入率64.8%	学校全体の問題として2年連続定員の半数の入学者である現状を憂慮し、常識や前例に囚われない対策を早急に講じる必要がある。このまま来年度も入学者数が改善できなければ「スポーツをととしての入づくり」の基盤である部活動は今以上に衰退してしまう。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
教育相談室	・広報と研修の充実を図る	・生徒や保護者に、スクールカウンセリングの案内を行う。 ・教職員、生徒向けに「スクールカウンセラー便り」を発行する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者説明会や新入生オリエンテーション、三者面談時において、カウンセリングルームの案内とスクールカウンセラー来校日の連絡を行った。 ・職員研修を1回実施した。(参加率98%) ・「スクールカウンセラーだより」を発行し、(生徒向け10回、保護者向け1回)生徒理解に関するスクールカウンセラーからの助言や、生徒の心の成長を促す内容を掲載した。 ・相談件数は前年度から微増し、先生方との情報共有の機会が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングルームの案内とカウンセラー来校日の連絡については継続していきたい。 ・相談傾向として長期的な支援を必要とする生徒が相談につながり、その支援過程で先生方との情報共有が増えたので、その情報を継続していく必要がある。 ・職員研修でいただいた意見や希望をもとに、研修テーマを検討し、教育相談の充実に向けて研修を深めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな悩みを抱える生徒が増える中、スクールカウンセラーの重要性は高まっている。相談の充実に向け取り組んでもらいたい。 ・支援の必要な生徒の実態を把握し、新たな取り組みである「通級」の有効な活用を期待したい。 		
		・教職員向けに職員研修を実施する。	A						
	・支援の必要な生徒の把握に努める	・中学校訪問情報、生徒アンケート回答、各学年会議における情報交換等とおして、支援が必要な生徒の実態を把握する。	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問による情報をもとに、支援を要する生徒の実態把握に努めた。 ・中学校からの個別の教育支援計画、個別の指導計画提出の生徒に関して、今年度も高校での教育支援計画、指導計画を作成した。今後も生徒の支援に役立てていきたい。 ・次年度に向けて、通級による指導の準備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報内容の詳細について、中学校の教育相談担当者などから可能な限り早い時期に支援情報収集を行いたい。 ・通級による指導の指導内容の検討、教員への周知、担当教員との情報共有などが考えられる。
	・生徒についての的確な情報交換と教職員連携を図る	・定期的に教育相談室会議を開き、生徒についての情報交換を行う。	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室会議において、学年会議等の情報をもとに生徒理解の情報交換を行い、年度当初は「気になる生徒を」を仮想PC上で全職員に提示し、情報の共有をはかった。 ・効果的な支援を目指し、必要に応じてスクールカウンセラーと情報共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気になる生徒」の情報一覧の表現方法について、把握しやすい形態などを考えていきたい。 ・教育相談室会議において、スクールカウンセラーとの情報共有が行えるよう調整を行う。
		・必要に応じて「ケース会議」、「教科担当者連絡会」を開催し、支援や学習指導が必要な生徒について情報交換を行う。また、定期的に職員会議で報告を行う。	B						
	・相談活動の充実	・生徒指導部や進路指導部、養護教諭等、他分掌と連携しながら、クラスや生徒の状況に応じた相談活動を実施する。	B	B				<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して困っているという相談が、生徒や保護者からある場合、担任や当該学年、関係機関等と連携をはかりながら、支援認定を行っていきたい。 ・教育相談室、カウンセリングルームを有効に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を要する生徒に対する支援については、学校教育指導員・特別支援員・教育相談室・教科担当者・担任等に対応していくが、当該学年とも連携し、学習支援をしていく必要がある。 ・今後、学習支援と通級による指導が重なった場合、教育相談室が現在の室数では運営が難しいように思える。
・不登校や問題行動等、ケースに応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図る。		B							
・教育相談室を有効に活用する。		B							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
生涯 スポーツ科	実習の充実	・1年生野外活動実習 通常通り国立曽爾青少年自然家でのキャンプ実習を再開する。	A	A	従来のキャンプ実習と同様に「国立曽爾青少年自然の家」にて2泊3日の実習を実施した。コロナ禍であったが、感染者を出さずことなく、安全面・感染症対策に留意し、効果的な実習を実施することができた。	2日目にトレッキングを実施しているが、トレッキングコースや内容をより充実したものに改善してゆく。	・コロナ禍での実習はなかなか難しいものがあるが、実施いただき感謝している。 ・コロナ禍においては、それぞれの実習の取組にも臨機応変な対応が必要である。ご苦労頂くがよろしく願いたい。
		・2年生スキー実習 インストラクターの指導を意欲的に受けることにより、効率よく上達できるようにする。 A: スキー検定4級以上合格者90%	A		コロナウイルス感染症感染拡大のため、当初計画していた予定を3月初旬に延期して実施した。スキー検定3級合格者が4名。他の受験生とは全員が4級合格した。	コロナ禍での実習となったが、感染症対策を十分にを行い、感染者を出すことなく実施することができた。	
		・3年生 水上実習、吉野川周辺で新たな場所での実習をスタートさせる。下見・打ち合わせなどを入念に行い、達成感のある実習となるよう企画、実施していく。	A		水上実習となって2年目、今年度は吉野川での実施予定であったが、コロナウイルス感染症感染拡大のため、日程・場所を変更する形で実施した。計画の変更で臨機応変な対応が必要となったが、感染症対策・安全面に留意し、校内研修(プール実習)を加える形で実施した。感染者も出さず、生徒達の意欲やスキルも向上し、有意義な実習となった。	次年度は水上実習3年目、今後も持続可能な実習の計画をすすめていく。実習費用節約のため、次年度は宿泊場所を「三重県立熊野自然の家」に変更して実施予定。現地宿泊場所から活動場所までの移動手段を検討する必要がある。	
	部活動の充実	・日常の体育授業をとおして心身を鍛えるとともに、合理的で効果的な運動の実践が身につくよう指導していく。部員各自がお互いに濃厚接触者にならない行動を心がける。	B	B	コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、体育活動の停止や自粛が頻繁に行われた。部活動でのクラスターは見られなかったものの体育活動と感染症対策のバランスが難しい。公式戦が中止、延期となった競技も見られた。	感染症対策と体育活動のバランスを考え、基礎体力や技術の低下をさせない工夫が必要である。	
		・生徒の悩みや問題に対して部顧問と担任が連携を図り、心と体の安定を保ちながら人間性、競技力の向上を目指すとともに、退部生徒の減少を目指す。	C		一年生の絶対数が少なく、各部共に部員数の減少が見られる。特に多くの人数を必要とするチームスポーツの競技において試合に出ることが難しい部活動も出だしてきている。	学校全体の問題として受験者数確保の対策が必要である。	
	学力向上と進路指導	・日常の授業を大切に、聞く姿勢や理解、考える力をつける。学習活動優先を生徒に理解させ、授業や学校生活の様子など関係教員で情報共有し、連携を図っていく。学期末の成績不振者講習対象生徒の減少を目指す。	B	B	小学校・中学校での学習習慣がついていないことから定期考査で結果を出せない生徒が多く見られた。また、今年度はオンラインでの学習も多く、自主的な学習活動や課題の提出が苦手な生徒が苦勞する結果となった。	繰り返し言い聞かせ、徐々に習慣化させていく根気強い指導を粘り強く行っていく。	
・将来、体育・指導者を志す進路希望者数を増やしていけるよう、アプローチしていく。入学志願者の減少傾向に対策していく。 A: 入学者選抜への積極的な取り組み		C	全県的に公立校高校への志願者が減少している中、年々生涯スポーツ科の志願者数は減少してきている。教員の働き方改革やコロナウイルス感染症の影響で中学校の部活動が自粛を余儀なくされる傾向にある。		中学校への広報活動をすすめていく。生涯スポーツ科としての競技を強化するか、添上高校との棲み分けを考え出す事も必要である。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校事務	・授業料の納期内収納	<ul style="list-style-type: none"> ・納期以内での未収授業料が発生した場合は、その徴収事務取扱要綱等の関係規定に基づく手続きを着実に執ることにより、未収の解消を図る。 ・未収授業料の発生を防止するため、事務職・教職の連携を密に文書通知や電話、対面での納入啓発を図る。 ・就学支援金制度についての周知を徹底し、遺漏無くその申請が行われるよう啓発していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、未収授業料が1件発生している。年度内に必ず納付するよう督促を行っている。 ・就学支援金制度についての周知を繰り返し行い、その適用は十分に図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各種制度の周知を図り、未収金の発生を無くすよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、就学支援金制度の完全周知と未収金の発生は毎年の課題であるが、事務室の幾度にも渡る説明のおかげで周知度、また回収率は向上していると思います。お世話をかけますが、今後もよろしく願います。 ・今年度も已然コロナ禍であり、気象条件も厳しくエアコンを多用する日が多くなりましたが、こまめな省エネ対策で光熱費等を抑えられたと思います。 ・コロナ感染症対策としての物品購入にも随時状況に応じてご対応いただきました。
	・光熱水費等の節減	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた電力消費となるようデマンド監視システムの効果的な活用を図る。 ・省エネ環境意識の醸成を図り、無駄のない節電、節水に努め、経費の縮減とともに節電器機等への更新も行いつつ効果的な活用への工夫に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量、灯油購入量は今般の新型コロナウイルス感染症対策のために換気を多頻度で行う必要があったことから、それぞれ6%、13%の増となった。 ・省エネ意識の更なる醸成を図るとともに新型コロナウイルス感染症への対応を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド監視システムも活用しながら省エネ意識の涵養に努めるとともに、機器交換の際は費用対効果を勘案しながら省エネ機器の導入を進めていく。 	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
第1学年	基本的な生活習慣の確立	・社会や学校のルールを守る。 A 学校評価生徒用アンケート(項目19) 「そう思う」と「どちらかというと思う」 90%以上	B	B	・学校評価生徒用アンケート:校則や社会のルールを理解・遵守78.6% 大多数の生徒は理解・遵守ともにできている。ルールを守らないといけない事は理解しているが、実行に移せない生徒が一部存在する。1学期当初に不用意な意識から指導を受けた生徒が複数いた。	・今後さらに生徒達に基本的な生活習慣を確立する大切さを認識させるとともに、生徒自身に進路についても考えさせ、将来自分がどうあるべきか自ら考え、行動できるように指導していくことが重要である。	・昨年に比べ入学生徒数は大幅に減りましたが、個々の生徒への対応は充実出来たのではないかと。 ・基本的な生活習慣の確立、学習活動(特に進路を見据えた家庭学習)に対する意識の向上に向け、またコロナ禍でのオンライン授業の工夫等課題は山積ではありますが、引き続き丁寧なご指導をお願いしたい。
		・言葉や挨拶の大切さを認識する。 A 学校評価生徒用アンケート(項目17) 「そう思う」と「どちらかというと思う」 90%以上	B		・学校評価生徒用アンケート:先生・先輩・友人等への挨拶80.9% 生徒自身が挨拶する大切さを理解し、実感として日々の指導により挨拶する生徒は増加したと思われる。ただ、正しい挨拶として、習慣化していない生徒も少なくはない。	・多くの生徒が中学校に比べて、正しい言葉遣いができるようになったと答えているが、教員側からも積極的な声かけをおこない、挨拶の定着を図ってきたい。	
		・遅刻の防止、5分前行動の徹底。 A 遅刻数 学年平均1人1回以内 兼 A 入室遅れ含め1人20回(青カード)以内	B		R3年1学期 遅刻総数 計40回・・・97名中 R3年2学期 遅刻総数 計44回・・・94名中 R3年3学期 遅刻総数 計16回・・・93名中 の合計100回 ・遅刻数の目標はわずかながら達成できなかった。また、遅刻数は入室遅れも含め20回を超える生徒はいなかった。	・遅刻や途中入室共にほぼ特定の生徒に偏っており、面談等を通じて個人の意識の改善をおこなっていく必要がある。	
	基礎学力の定着	・予鈴着席の徹底、チャイム始業の定着。 A 学校評価生徒用アンケート(項目15) 「そう思う」と「どちらかというと思う」 90%以上	B	B	・学校評価生徒用アンケート:予鈴チャイム着席75.3% クラスによって約60%～約80%と開きがあり各クラスによって傾向が異なる。多くの生徒は予鈴前には着席状態であるが、準備という面に関しては取りかかりの遅さが目立つ。	・教師が必ず早めに教室に行き、生徒に当たり前であることを意識づけさせ、チャイム着席から授業の準備まで徹底させる。	
		・「基礎学」の充実、やり直しの徹底 A 小テスト合格率80%以上 兼 A やり直しプリント1週間以内提出 80%	B		R3年1学期は小テスト合格率70%、小テストやり直しプリント1週間以内提出率84% R3年終了時は小テスト合格率76%、小テストやり直しプリント1週間以内提出率89% ・学期がすすむにつれて、合格率・提出率ともに上昇傾向が見られるが、目標には達しなかった。	・やり直しの提出に関しては、一部の生徒(長欠等)をのぞきほぼできていた。一方で合格率の低調さが目立った。基本的な勉強をするということは進路決定だけのものではなく、将来社会で生きていく上で大切であるという認識を持たせる必要がある。	
	部活動への参加	・部活動への積極的参加、加入率の向上 A 加入率 60%以上	A	A	・R3年5月時点では61.6%の生徒が部活動に加入していたが、その大半は割合が高い生涯スポーツ科である。1学期以降に退部していく生徒・2学期以降に新たに加入する生徒もあり、数値としては大きくは変わっていない。	・中学校在籍時にコロナが発生し、活動が大きく制限された。高校入学後も十分な活動ができておらず、積極的に運動部に加入しようという生徒や加入後のギャップや消化不良感があるように思う。部活動の日数や時間の制限がすすむ事で以前より継続しやすい部活動に変革していく必要があるように感じる。	
自己肯定感の醸成	・個人面談や家庭訪問だけでなく、ホームルーム活動、生徒指導の場面で有効活用し、自分自身のこれまでの振り返り、これからの生き方など自らの在り方を考えさせる。 A 学校評価生徒用アンケート(項目21) 「そう思う」と「どちらかというと思う」 80%以上	B	B	・学校評価生徒用アンケート:悩み・相談への受け応え70.8% コロナ禍の中での高校進学で4月当初よりミスマッチングな生徒が多少なりともいたが、自立活動の見立てや個人面談等の場面を通じて、現実との穴埋めをすべく、新たな目標設定や進路変更などに結びつく生徒もいた。	・教育相談等との連携も含め、多角的な面から生徒個人の指導にあたっていく必要がある。ただし、保護者の理解が不足しているような場面も多くみられ、家庭との協力だけでなく、綿密な連携を図っていく必要も感じている。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	積極的な学習態度を養う	予鈴着席の徹底 A 達成度90%以上	A	生活アンケートでは96.0%が達成できていると答えた。1年次より取り組んできたことが、生徒自身にも浸透し、時間に対して真面目に取り組むことができたと考えられる。 学校評価アンケートでは85.8%が達成できていると答えた。理解度は不明であるが、授業に対して真面目に取り組むことができ、授業内でやるべきことはやれていると考えられる。 基礎学の小テスト合格率70.2%であった。落ち着いて勉強プリントに取り組む、基礎学力向上を目指した結果であると考えられる。	次年度は進路実現に向けて、確かな学力を身につけられるよう、自発的かつ積極的に授業に取り組む必要があると考えられる。また、生徒の質が、年々変化し、教員も接し方や説明方法を見直しながら、柔軟な対応が求められるように感じる。入学当初より、各学級や学年集会等で行ってきたことが、3年間継続して取り組めるかが、課題である。	・昨年に比べ入学生徒数は大幅に減りましたが、個々の生徒への対応は充実出来たのではないかと。 ・基本的な生活習慣の確立、学習活動(特に進路を見据えた家庭学習)に対する意識の向上に向け、またコロナ禍でのオンライン授業の工夫等課題は山積ではありますが、引き続き丁寧なご指導をお願いしたい。
		授業を大切に A 達成度90%以上	B			
		基礎学力を身につける A 基礎学の小テスト合格率70%以上	A			
	規則を守る	服装、頭髪を正す A 達成度90%以上	B	生活アンケートでは、「規則に従っていますか」の間に84.7%ができていますと答えている。1年次より、進路実現に向けた取り組みとして身だしなみについてやってきている成果であると考えられる。 生活アンケートでは83.2%の生徒が挨拶を自ら実行できていると答えている。進路実現に向け、全員が行えるよう、再度徹底してできるようにしたい。 昨年度比0.2%増(総数397件)となった。不登校傾向の生徒の遅刻が多く、オンライン授業により家庭で過ごすことが多い。基本的な生活習慣の乱れが理由として挙げられる。	学校の仕組みや、教員、取り巻く環境に慣れてきたことが、遅刻件数の増加の原因のひとつと考えられる。また、挨拶を自らすすんで行うことができる生徒が増加せず、現状維持であることもまた、これぐらいで良いだろうと思いついてしまっているのではないかと考えられる。次年度は、法改正に伴い、成人を迎える学年集団となることから、社会人としてのルールやマナー、適切な言動を指導していきたい。	
		挨拶を自らすすんで行う A 達成度90%以上	B			
		欠席、遅刻をなくす A 欠席、遅刻前年度比10%減	C			
	集団生活を心掛ける	社会の一員である自覚をもつ A 達成度90%以上	B	学校評価アンケートでは、88.3%が社会の一員である自覚をもっている。精神的にも成長した結果であると考えられるが、まだ幼さをもつ生徒も一定数存在する。 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、スキー実習(2年1組)のみの実施となったが、満足度100%を達成した。変更事項が多かった中ではあるが、良い対応を生徒、職員共にできた結果であると考えられる。 生活アンケートで90.7%を達成した。各クラスでも教室美化に努め、教員が廊下を定期的に掃除するなど、学年として美化に取り組むことが出来た。	集団での生活にも慣れ、生徒人間関係の構築にも進んで取り組んでいた。新年度では最上級生になることを自覚し、学校代表であることを自覚させたい。また、普通科修学旅行が4月に予定(延期)されていることから、身勝手な言動をさせず、有意義な修学旅行を実現したい。	
		充実したスキー実習、修学旅行にする A 満足度90%以上	A			
		校内美化に努める A 積極的に美化活動に参加する90%以上	A			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	・学習意欲を喚起し、授業を大切に学力の向上を図る。また自己の進路実現のため、積極的に行動する態度を育てる。	・予鈴着席・チャイム始業を徹底する。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B	B	生徒アンケートでは、72.8%の生徒が実践している。目標の90%には達していないが、ほぼ全員が予鈴で教室に入り、授業準備もできた。3年間でしっかりと習慣が身についたと考えられる。	教師が必ず早めに教室に行き、生徒に意識づけさせ、チャイム着席から授業の準備まで徹底させる。	・昨年に比べ入学生徒数は大幅に減りましたが、個々の生徒への対応は充実出来たのではないかと考える。 ・基本的生活習慣の確立、学習活動(特に進路を見据えた家庭学習)に対する意識の向上に向け、またコロナ禍でのオンライン授業の工夫等課題は山積ではありますが、引き続き丁寧なご指導をお願いしたい。
		・課題提出等を含めた学習態度をよくさせ、定期考査にきちんと取り組むよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上	C		生徒アンケートでは考査前家庭学習に取り組んだ生徒57.9%、期限を守り課題を提出した生徒は68.5%だった。課題を提出する習慣は大半の生徒が身につけているが、家庭学習を積極的に取り組んだ生徒が少ない。	進路決定後も大きく崩れることなく授業を受けることができた。就職・進学ともに集会も定期的に行うことが成果に繋がったと考える。	
		・自らの進路を前向きに考え、進路資料室を活用したり、教員に相談したり等、進路実現のために積極的に行動し、進路達成率を向上させる。 A 進路決定達成率90%以上	A		2月の時点で98%が進路決定している。自分の進路実現のためよく頑張ったように思われる。	今後、離職や進路変更などないかどうかの心配な面がある。1年時より長期的に進路指導を考える必要がある。特に自己理解をきちんとできる必要がある。	
	・諸活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育て、学校生活を充実させる。	・部活動や生徒会活動が活発になるよう各自が工夫をし、最上級生として後輩の模範となる姿勢を育てる。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B	B	生徒アンケートでは、部活動・生徒会活動が活発だと答えた生徒は78.1%だった。部活動については、入部している生徒は積極的に取り組んだ。生徒会活動もコロナ渦だったがでる範囲で頑張った。	生徒会活動では、例年の活動以外にも新しい活動にチャレンジをしてみたいのではないかと感じる。	
		・TeamPioneerを中心に学校生活が充実するよう、様々な取り組みを企画し、運営できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%	B		生徒アンケートでは、学校行事が充実していると68.4%が答えた。最後の学年として文化祭・球技大会・体育大会において積極的に取り組んだ様子が見られる。	生徒がチャレンジできることを提案することで、積極的に活動することができた。	
	・社会人として必要な生活習慣やマナーを身につける。	・校則や社会のルールを理解し守るよう指導をし社会人としての自覚を養う。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B	B	生活アンケートでは、76.3%が大切さを理解している。大半の生徒は制服を正すことの必要性を自覚し、正しく制服を着用することができた。靴下やインナーの違反をする者がほとんどいなかった。	頭髪指導において保護者の理解が得られないことがあった。頭髪のルールを見直してもいいのではないかと考える。	
		・挨拶をする大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B		78%の生徒が挨拶する大切さを理解している。面接指導や日々の指導により挨拶する生徒は増加したと思われる。しかし、進路が決まった後では、できなくなってしまった生徒もいるのが課題であった。	進路が決まって、気を抜かないように、常に挨拶の大切さを伝えて行くことが大事であるとする。	
		・正しい言葉遣いの大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう適切に指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B		生徒アンケートでは、79.8%が正しい言葉遣いを行っている。正しい言葉遣いの徹底を心がけながら指導してきたので、その指導効果もあり定着した。	人なつこい性格で無意識に敬語を使わず話をしてしまう生徒がいるが、教師側からの声かけと共に進路に繋がる様々な機会でも正していく必要がある。	
		・時間を守る大切さを理解させる。欠席・遅刻をしないように指導する。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減	A		多くの生徒が時間を守る大切さを理解している。欠席数は、2年生時の67%減、遅刻数は35%減になっている。	欠席数については、昨年度より大幅減になった。全体の数としては大幅に目標達成されているが、一部の生徒が多数の欠席・遅刻をしている。その生徒の自覚を促すと共に家庭生活のあり方を改善させる必要がある。	